

令和 6 年能登半島地震による津波の被害事例と大学での学び（速報版）

2024.1.7 金沢工業大学 有田 守

令和 6 年能登半島地震で発生した津波は震源が陸地に非常に近かったため第一波の津波の到達時間は気象庁のデータから輪島港で1分と非常に早く最大波の到達時間は11分でした。津波の被害は把握されている地点では震源に近い珠洲市での被害が大きく鶴飼漁港、飯田港周辺で浸水被害が発生していました。これは、津波ハザードマップで示されている被害の大きな箇所と良く一致しています。

1月2日から土木学会海岸工学委員会の津波調査チームの一員として能登半島の調査に参加しています。珠洲市では津波高さが約3.5m、津波遡上距離（汀線から遡上地点までの距離）が130mある地点がわかりました。



写真1 津波浸水による被害の様子



写真2 残雪に残された津波の痕跡と調査の様子

写真1 津波の浸水によって車両が流されて漂った後、津波が引いて取り残された様子です。津波は急激に海の水位を上昇させて、川の流れのように陸地に入り込んでいきます。

写真2 は津波の浸水高さを調べている様子です。津波に浸かると建物や木々に津波の浸水痕（しんすいこん）と呼ばれる印が付きまますのでその高さを GPS やトータルステーションと呼ばれる測量機材を用いて計測を行います。

この調査によって計測された津波のデータは今回の津波の特性を把握するために使用されます。また、これらのデータを用いて津波の高さを計算するシミュレーションの精度を向上させる貴重な実測データベースの構築に貢献しています。

環境土木工学科では2年生の水理学 I,II の授業は、水による力や特性を学ぶ科目で基礎を学んで、3年生の環境工学 II で海岸工学（波、漂砂、津波）を学んで津波に関する基礎的な知識を身につけます。



写真3 残雪に残された津波の痕跡



写真4 家屋に残された津波の痕跡